

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 4月1日

事業所名 放課後等デイサービス このひかり

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0		
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	6		踏み台や、マット等を使用	対象児童がいない為。段差などは工夫している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	0		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	2	0	研修などを通じて改善点を学んでいる	十分とは言えないため今後は意欲的に取り組んでいく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	3	0	外での研修の機会があまりないが、Zoomやオンライン研修を活用している。	職員の希望する研修を増やしていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	0	アセスメントは行っている	ツールなどを使ったアセスメントを取り入れていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	3	0	重ならないような活動を取り入れている	活動内容は工夫しているが、公園などが固定化している。活動内容は同じ(買い物支援)でも、場所等を変えて計画する
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	現時点では個別活動を要する対象児童がいない。	専門的支援職員による計画的な個別支援を行う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	0	業務終了時に職員ミーティングを設け、情報共有を行い、一日の情報を日誌にまとめ、休みの職員とも情報共有を行っています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	毎日の記録を担当別に把握し取り組んでいます。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	職員間で、児童の課題等を話し合い今後の計画に反映しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	0	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	会議前には、ミーティングを設け対象児童に対しての情報共有を図り、児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	4	0	対象児童なし	対象児童を受け入れる際には連携体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2	0	系列事業所は可能だが、他事業所からくる児童や新規は難しい。保護者や相談員と情報を共有している。	相談員・保護者からのアセスメントを密に行う。また、保護者からの要望・気になる点が出た場合は情報共有の場を設ける
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	4	0	移動した児童の情報も共有している	現在、移行する児童がいないため、その際は情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	4	0	専門機関との連携を図っている	専門機関との連携はあるがまだ十分ではない為、今後は研修なども取り入れていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	5	0	クラブ等との交流は少ないが、地域のイベントへは積極的に参加し、ネットなどを使い情報を集めている。	地域活動の場所を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	5	0	関係機関との会議には参加している	要請等があった際には積極的に参加・情報提供していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	5	0	以前は行っていたが、感染症予防のため計画が難しい。	職員がペアレントトレーニングについて学ぶ機会を設けて、保護者へも積極的にアドバイスできるようにしていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	0	保護者と情報交換を図りながら行っています。	情報交換を行いながら、研修などを通じて知識を広め助言することが出来るようにしていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	1	コロナの為計画が難しかった。	令和6年度は、事業所参観を実施。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	0	苦情などが発生した際に担当者へ連絡して対応できるようにしています。	苦情や問い合わせの際には迅速に対応していく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	行事予定、月のスケジュールなどを配布してお知らせしています。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	管理を気を付けて行っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3	1	地域の行事に参加している	招待できる場所・人員の獲得を検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	定期的に訓練をしています。(年2回)	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	0	定期的に訓練をしています。(年2回)	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	0	アレルギーの確認を保護者に行っています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	0	ケガ等の出来事は連携し合い今後の注意に繋げている	ヒヤリハット事例を学び、事業所内でも起こりうるものを除外できるように努める。